



京都市手話学習会「みみずく」
本部機関紙部発行
会長 石神博行
事務局 FAX0758126112
みみたん通信 第56号
<http://33zk.sakura.ne.jp/>
2023年 7月1日発行

2022年度定期総会開催

定期総会報告

京都市手話学習会「みみずく」本部定期総会を4月29日（土・祝）に開催しました。

今年度は講演会に引き続いて、午後から京都市聴覚言語障害センターで行いました。

出席者は48名 委任状185名 計233名の参加でした。

会員294名の1/2以上となり、総会は成立しました。

みみずく会石神会長の挨拶、京都市聴覚障害者協会中山会長の挨拶の後、各担当より2022年度総括・活動報告・決算報告が行われました。また、各担当より2023年度活動方針案・会計予算案が示され、いずれの議案も賛成多数で議決されました。本部役員の候補者は、それぞれ賛成多数で信任されました。役員選挙では選挙管理委員の方々が選挙方法を工夫された結果、テンポよく無事実行することができました。ただ、総会途中の休憩の取り方や、役員候補者の紹介方法など課題もありましたが、来年度に向けて改善してゆきたいと思います。

次に、各支部活動報告及び支部長・新運営委員の紹介が行われました。

最後に、2023年度も担当していただける石神新会長の挨拶をもって本部定期総会を終えました。今年度も皆さんと共に活動してゆきたいと思いますので、疑問に思っている事や、様々な意見や案なども遠慮なくおっしゃってください。よろしくお願いいたします。

目次

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1・・・2022年度定期総会 | 6・・・『レインボー3学習会』見聞録 |
| 2・・・2023年度会長あいさつ・三役紹介 | 7・・・耳の日記念集会 浅井氏講演 |
| 3・・・持田氏講演感想・京都ろうあ者大会感想 | 8・・・京の手話体感学習会感想 |
| 4・・・全国手話研修センター創立20周年 | 9・・・活動助成金報告・ |
| 5・・・映画『咲む』感想 | 近畿手話サークルフォーラム |
| | 10・・・行事予定 |

新年度会長あいさつ

今年度も会長としてご承認を頂きました、石神でございます。

最近やっと、新型コロナウイルスの影響がおさまってきたように思えます。

まだまだ予断は許しませんが、感染対策や予防は続けながら、
少しでも「みみずく」の活動を盛り上げて行けたらと考えています。

なによりも今年は、京都市手話学習会「みみずく」ができてから
60年を迎えます。実行委員会を中心に、共に企画し、共に学び、
交流し、大いに活動したいと心から思っています。

みなさま、どうか1年間よろしくお願いします。



京都市手話学習会「みみずく」
会長 石神 博行

2023年度 三役紹介

会長	：	石神 博行	北支部
副会長	：	安政 裕之	西京支部 火曜日の部
副会長	：	中村 わかな	左京支部
会計局長	：	竹井 友子	中京支部 夜の部
会計局次長	：	村田 朱美	上京支部 昼の部
事務局長	：	鶴来 明	東山支部
事務局次長	：	普賢 千寿子	中京支部 夜の部

京都市手話学習会「みみずく」目的

手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、全ての人に対する差別や偏見を
なくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していく

持田氏の講演を聞いて

4月29日午前中に、2022年度みみずく全体研修会として講演会を開催しました。

講師は「もっちー」こと、持田隆彦さんです。テーマは「みみずく創立60周年の歩みとその後」。みみずく会設立時の社会について、持田さんが実際に目にしたこと、体験してこられたことを丁寧に話していただきました。以前は聴覚障害者に対しての差別だけでなく、夜間学校に通う聴者に対しても差別や偏見があったそうです。みみずく発足時のメンバーには夜間学校に通う若者も多かったことから、そうした悔しい気持ちをエネルギーに変えてろう者との活動につながっていったことを初めて知ることができました。参加者からご協力いただいたアンケートのコメントをご紹介します。

「いろいろな支部で話をしてほしい」「もっとじっくり聞きたかった」

「みみずくの誕生がよくわかった」などなど……。

実はもっちーからもアンケートの感想をいただいたのですが「時間が足りなかった」「あの部分をもっと話したかった」と書いておられました。今回参加できなかった方も多いかと思います。是非、それぞれの支部で、もっちーに依頼されてはいかがでしょうか？

中京支部夜の部 竹井友子

第10回 京都ろうあ者大会に参加して



京都に来て1年足らず、サークルや聴障協の方と少しずつ顔見知りが増えてきた中、要員として参加しました。とはいえ、右も左もわからない状態、まずは集合場所のバス停を乗り越し、御所から歩いて戻る、というところから始まりました。私の担当は会場係。打ち合わせの決起集会には仕事の都合で遅れて参加したので、資料を読み込み、わからないところはLINEで教えて頂いて準備しました。実際には集合時間から受付開始までの時間が短く、慣れないせいか忙しく感じました。また、右京支部のTさんから京都の様々な情報を教えて頂いたり、初めましての方々と繋いで頂いたり、有意義な1日を過ごすことができ本当に感謝です。京都で参加するのは初めてですが、何処であってろう者が集い、思いを1つにするこの大会には熱を感じます。戻りつつある様々な行事にできるだけ足を運び、大会宣言にもありますが、情報アクセシビリティやコミュニケーションの促進について、ろう者と共に考えていきたいと思っています。

南支部 蔭山 修司

おめでとう！！

全国手話研修センター創立20周年

2023年3月19日（日）社会福祉法人全国手話研修センターの創立20周年記念式典が全国手話研修センター（コミュニティ嵯峨野）で開催された。

全国手話研修センターは2002（平成14）年1月31日、厚生労働大臣から社会福祉事業である手話通訳事業を行う、全国初の社会福祉法人として認可された。

この間、手話を中心としたコミュニケーション環境の整備を中心とした事業を行ってきた。

私たちに馴染みの深い手話テキストや防災の手話、コロナ関係の手話、そして何よりも全国手話検定試験、手話通訳者・手話通訳士育成のためのテキストはサークルの皆さんも目にされていると思う。手話辞典などはとても重宝な書籍である。

黒崎信幸理事長の挨拶、来賓の挨拶、感謝状の授与、永年勤続（15年以上）といっても、創立当初からの職員4人。他人事ながら嬉しくなった。

続いて小出新一常務理事から「20周年の歩み・新しい歴史にむかって」報告があった。

2001年10月4日に行った第一回手話通訳者登録試験（現在の手話通訳者全国统一試験）を実施し、21年間で（大阪を除く）都道府県など53団体で実施されて、延べ28,008名が受験し、5,806名が合格（平均合格率20.73%）して各地域で登録通訳者として活動している。2006年から全国手話検定を開始し、学校、職場などを単位に別日程で実施する団体受験も含めて、10,000人を超える人が試験に挑戦している。

コロナ禍からインターネット試験も開始。また、若い手話通訳の担い手を増やすために2019（令和1）年度から京都の龍谷大学と連携してモデル講座も開始、みみずくにもこの講座受講の大学生が何人か来ていて、将来が楽しみである。

式典参加者は約100人。式典終了後は、第21回さがの手話まつり。

久しぶりの集合型の祭りに、皆がてんてこ舞いだった。

南支部 持田隆彦



全日本ろうあ連盟創立70周年を記念して制作された映画『咲む』はコロナ禍のなか、京都市内では3回目の上映会が、さる2月23日京都市聴覚言語障害センターで2回上映された。1回目67人、2回目24人。合計91人の参加者があった。とても感動する映画で、2回、3回と繰り返し見に来ている人もあった。脚本、演出、監督は早瀬憲太郎氏。まだご覧になっていない方は次の機会にはぜひご覧ください、おすすめします。

南支部 持田隆彦



やっと見られた映画『咲む』

2月23日（木・祝）に京都市の聴覚言語障害センターで上映された『咲む』を見に行きました。前回上映された時は、都合が合わなかったもので、次の機会にはぜひ行きたいと思っていました。ろうである主人公の瑞月（みづき）は、自分の出来る範囲でみんなの為に何か出来る事はないかと模索している姿がとてもステキでした。彼女の生まれる前の祖母の心ない言葉に傷ついたりもしましたが、所々に出てくる“生まれてくれてありがとう”という言葉を見ているこちら側にも投げかけられているように感じました。とても興味深い、素晴らしい内容の映画でした。

南支部 永濱道代

『 レインボー3 (さん) 学習会 』 見聞録

みみずく会員のみなさん、学習会には参加すべきですよ。

視て、聴いて、話し合うという楽しい時間が得られます。今回は2時間あまりでしたが、私自身の活動を振り返ったり、学習意欲が掻き立てられたりと、とても心地よい疲れを感じて帰ることができました。

学習会の前半は、府ネットの事務局で、レインボー3検討委員の加藤桂子さんからの『レインボー3(さん)』作成までの変遷と『レインボー3(さん)』は何について書かれているのかを丁寧にお話しされたので、とても良くわかりました。例えば運動の歴史では、箱物建設運動から社会を変える運動に転換して行ったことや社会の課題をどうしたら変えられるのかなど、生きる権利、当たり前の暮らしをする権利など、学ぶことにより集団で一緒に勉強していきましょうとまとめられていました。

また、後半のグループ討議では、参加者一人一人のはなし(手話)を通して、府下各地域の現状が聞けて(見られて)とても、有意義でした。

最後に、伝達の意味を込めて、講師(加藤さん)から参加者に投げかけられたQ&Aをいくつか抜粋してみました。

加藤さんからの問いを参考にサークルでも話題にして、知っている人とおしゃべりしましょう。

Q 皆さんの参加している団体の「要望書」を知っていますか。

Q レインボー京都、新レインボー、レインボー3を見たこと(聞いたこと)ありますか。

Q 聴言センターは、何のために作られたのでしょうか。

Q 京都府の手話言語条例が出来て以降、あなたの地域では、手話は広まりましたか。

Q 日常生活の中で、どんなことをやったら、暮らしは豊かになるのでしょうか。

Q ろう者は、どんなことに困っているのでしょうか。

Q 障害者情報アクセシビリティを実現するには、何が必要でしょうか。

なお、まだ冊子を持っておられない人は支部の本部運営委員さんに申し出て下さい。

多くの会員さんが自分のこととして『レインボー3(さん)』の冊子を手にとって下さることを願っています。

西京支部 安田慶彦

耳の日記念集会 浅井氏講演

私は市ネット委員で、今回の第49回耳の日記念集会の京都市聴言センター会場の担当(オンライン&バザー)でもありました。本会場を府聴言センターに置き、5つの地域ネットワークをオンラインで繋ぐという、コロナ禍だから出来た耳の日記念集会でした。それぞれの地域に特色があって面白かったです。山城ネットワークの取り組みが細分化されていてびっくりしました。

久しぶりに見る顔もモニター越しだと、まるでテレビを見ているようでした。式典・地域活動報告も終わりオンラインでの耳の日集会は終わり、次は各地域ネットワーク独自のイベントになります。市ネットのイベントはスペシャル企画で元府聴障協会長の浅井ひとみさんを講師としてお招きし、講演会を開きました。ご自身の生い立ちから協会に関わり府聴障協会長になった。現在は会長を次世代の若者に託した。その講演の中で、私が印象に残った2つをあげるとすると、1つ目は福知山の天田地方聴覚言語障害センターが設立した事です。浅井さんが居なかったら天田事務所は無かったという話を聞いた事があります。2つ目は、ろう相談員として京都中を東奔西走していた(している?)ことです。笑顔がキュートな浅井さん。こちらまで笑顔になります。最後まで笑顔の絶えない講演になりました。最後にここだけの話、浅井さんのマシンガントークの読み取り通訳が、「ホンマ大変そうやな」って見ていて、聞いていて思いました。

西京支部 安政裕之



京の手話体感学習会に参加して

去る3月11日（土）京の手話体感学習会に初めて参加しました。

京都御苑蛤御門に集合して、いざ出発！の前に早速、本岡さんの講義。京都御苑は1337年9月26日 建立、旧名称が『土御門東洞院』だったことや、南北1,300m 東西700mの広さがあることなど教えてもらいました。



烏丸通りを渡ってすぐの護王神社へ。別名『いのしし神社』とも呼ばれ、足腰の守護神としても有名です。平安京造営に貢献した和氣清麻呂公が祀られているとのこと。説明を聞いたあと、皆、思い思いに境内を散策したりお土産を購入したりしていました。

次に向かったのは『日本初盲啞院創建之地』の記念碑。何と！驚くことに第二赤十字病院前の一角に鎮座していました。これまで全く気づかず、知りませんでした。皆さん、写真を撮っていました。場所を梅屋広場に移し、古河太四郎先生が設立された盲啞院『開学の地』『創建の地』そして『現在の聾学校』への移り変わりを学びました。



参加者一同での賑やかな昼食を挟んで、午後はこども未来館で交流会。5グループに別れて『京の手話』をテーマにそれぞれが自由にトークをしました。私が参加したグループでは最初は主に読み取りの学習をやりました。「相手を真似て手を動かしてみよう！（シャドーイング）」「分からない…と、やり過ごすのではなく積極的に聞いて会話しよう！」「ただ見ているだけでは身につかない！」少々厳し目の指導を受けましたが心構えがなければ確かに身にはつかないな！と、納得です。後は『京の手話』を元に日常的に使われている生きた手話表現を教えてもらいました。例えば「まさか」「あたりまえ」など。昔から使われ続けている馴染みの深い表現は興味津々で、とても楽しく学べました。

上京支部 服部恵美子

みみずく活動助成金報告

中京支部 創立40周年記念事業「座禅体験&庭園見学会@天龍寺」

5月21日(日)、嵯峨嵐山にある大本山天龍寺に行きました。

参加者はみみずく中京支部夜の部 10人、昼の部 2人、京都市聴覚障害者協会中京支部 11人の合計23人です。聴言センターの3階で暮らす“仲間”も参加してくれました。



坐禅体験では、大本山天龍寺宗務総長小川湊生(しゅうせい)様に座り方や姿勢、「けいさく(背中をたたく棒のこと)」をいただくときの合図について教えていただきました。小川総長のお話は聞き取り通訳と、触手話通訳をみみずく会員で行いましたが、坐禅中もお話されるとは！予想外の展開でした。庭園見学の時間は西京支部の会員である安政さんを仕事にもかかわらず呼び出し、

庭園の解説をしていただきました。詳しい人から手話で説明してもらえたことで、有意義な時間を過ごすことができました。参加者から「想像していたより痛かった」「初めての体験ができた」「コロナ禍の入会で初めて会う人も多く楽しかった」などの様々な感想がありました。やっぱりみんな外に出るっていいですね。

中京支部 夜の部 竹井友子

近畿手話サークルフォーラム

2023年(令和5年)3月26日(日)午前10時～午後4時まで、奈良県社会福祉総合センターにて、第33回近畿手話サークルフォーラムが開催され、参加しました。これまでコロナ禍のため中止、また昨年度はオンライン開催で、対面開催は4年ぶりでした。

最初は、近畿ろうあ連盟手話対策部長 嘉田眞典さんより「ろう者から見た手話サークルの課題、これからの活動に期待することなど」のお話。続いて、近畿2府4県の各代表による「サークルの現状とこれからの取り組み」についてのパネルディスカッション。どこの地域も共通の課題として「世代交代の問題」が提起されていました。現在、活動している人たちが、若い方々を巻き込み、一緒に活動していくことが大切であるとのお話もありました。

午後からは分散会。どの分散会も同一テーマで討論しました。私が参加した分散会では、まず、サークル歴ごとに「サークルへの思い」を語り、その後グループ討論。各地域から「ろう者のいる所でも手話を使わない」「ろう者も会員として会費を払う」など、現状についての情報交換をしました。ただ、時間が短かったため、十分な意見交換が出来なかったのは残念です。聞こえない人も聞こえる人も対等にサークルに参加出来ることの最低条件が「サークル中は手話で話す」という原点を考えさせられた分散会になりました。

右京支部 高瀬るみ子

行事予定

9月24日（日）60周年記念行事 日帰りバスツアー

10月9日（月・祝）60周年記念式典 全国手話研修センター

10月21日（土）ほほえみ広場

11月25日（土）楽しいスポーツ大会 高野スポーツセンター

編集後記

久しぶりに開催された行事などもあり、みみたん通信の紙面もだいぶ賑わってきました。
みみずく創立60周年記念式典にむけて、ますます盛り上がっていくと思います。
これからも原稿の依頼など皆さんにお願いすることがあると思いますが、
「依頼された原稿はできるだけ早く出す」を合い言葉に、ご協力お願いします。

川島浩子

